

大学名 静岡大学(未来社会デザイン機構・農学部)

第64号 特集テーマ「地域の中核となる大学」

表題

地域社会と大学の新しいパートナーシップ～2030松崎プロジェクトの挑戦～

取組の様子



松崎町の伝統的な「なまこ壁」の保全活動



古民家をミーティングルームとして活用

特色ある取組

静岡大学では、松崎町、松崎町観光協会、伊豆半島ジオガイド協会とのパートナーシップに基づく「2030松崎プロジェクト」事業に取り組んでいる。本事業は、バックキャストアプローチと対話に基づいて、地域住民や産業界と大学が連携して、町の将来ビジョンの策定、2030年の到達目標(Goals)の設定、並びに目標達成に向けた住民参画による取組を進めている。次世代の願いを反映させるため、松崎中学・高校生を中心とした対話をもとに「2030松崎ゴールズ1.0」を作成した。これに基づき、現在8つのチームと2つのスタディグループで活動が進んでいる。

静岡大学の学生も活動に参加し、広報誌の作成やワークショップにおいて松崎町の学生と対話を通じて意見を交わすなど、地域と大学の連携を深めている。

地域の課題解決に向けて、総合大学の知を結集した文理融合の研究領域横断的なチーム「オール静岡」で構成し、多面的・包括的な解決アプローチを採用している。持続可能な社会とすべての人のウェルビーイング(幸福)を目的に、多様なステークホルダーとの対話を進め、共創的なパートナーシップを確立し、未来社会をともにデザインする。

また、伊豆市に未来社会デザイン機構が運営する静岡大学東部サテライト「三余塾」を設置し、人と人との出会い、学びと協働の場を提供・運営している。

2030松崎ゴールズ1.0

1	松崎の自然・安らぎ・体験の オンリーワン が育ち、何度でも来たくなる「中毒性」のあるまちになっている。
2	「ささる」観光を 多様な世代がプロデュース し、多様な発信とPRを展開している。
3	エコ・ツーリズムとサステナブル・ツーリズム が実現している。
4	地域の交通ネットワークと都市との相互アクセス が整備されている。
5	地域の資源・資産 のユニークな価値が発見され、活用されている。
6	伝統の魅力が広く共有され、「 祭り 」などが継承されている。
7	のう(腹)とりょう(漁・猟) の活動が受け継がれ、 食べ物 が新鮮でおいしい。
8	地区・世代を超えた 人間関係 が守られている。
9	子育て をしやすいまちである。
10	多様な選択肢のなかから、 やりがいのある仕事 に就ける。
11	都会的な 飲食・買い物 も楽しめる。
12	高齢者 になっても活躍できるまちである。
13	三余塾 の伝統が受け継がれ、市民たちの 学び合い の場がある。



多様なメンバーの対話に基づくアプローチ

期待できる成果・評価 など

地域社会と対等な関係で理想やアイデア、責任とコストを共有し、学び合いながら協働を進めることで、支援／利用／依存関係からパートナーシップを築き上げ、連携を深めることが期待される。

また、大学における教育・研究・社会連携の諸活動を統合的に捉え、専門分野や部局の壁を超えて、一人ひとりが持ち味を発揮できる分野横断的なチーム単位での持続可能な事業展開を目指す。

参考URL

・2030松崎プロジェクトHP
<https://sites.google.com/view/matsuzaki-shizudai-top>